

「やまの健康」推進プロジェクトチームにおける検討状況について

〔活動経緯〕

- H30.10/5 「やまの健康」推進プロジェクトチーム(以下PT)発足
- PT会議 全5回(10/22、11/9、11/30、12/28、1/14)
- その他打合せ 11/15
- 主な検討事項 「やまの健康」の定義、県事業等の現状と課題について、地域のニーズと課題について、モデル地域の検討について など
- 現地活動・情報収集 12/28 市町(多賀町)地域課題聴き取り調査
1/8 地域活動家訪問聴き取り(マキノ)

〔検討状況〕

テーマ	現状と課題	対応の考え方
森林保全と活用	①過疎化や高齢化で農林業の担い手が減少し、農地や森林に手が入らなくなり、荒廃が顕在化している。 ②獣害による農林業被害のために、意欲が減退している。 ③農山村で自ら地域づくりを行いたい人々へのサポートが必要。	○住民が主体となって地域の魅力を発見し、活かしながら山の管理を含めた地域コミュニティの維持・活性化を図る必要がある。 ⇒(住民主体となって取り組む) 「やまの健康」の推進
農山村振興	①高齢化による農業の担い手不足や集落役員の負担増大等により、集落機能の低下が懸念される。 ②農山村地域では、豊かな自然や地域資源(山の幸・農の幸)、伝統文化等を有しているにも関わらず、有効活用されていない。 ③既存事業は一定の効果が現れているが、集落リーダーの高齢化等により集落内の合意形成や継続した取り組みが困難になりつつある。	○地域住民や関係者が知恵を出し合ったうえで農山村の魅力を発信等活性化に向けた方策の検討、多様な主体(企業、大学、NPO法人、森林組合、観光協会等)と連携した農地等地域資源保全活動等の継続した取り組みが必要。 ○都市住民との交流を通じた、農山村地域の活性化を目指す。 ⇒山と農のにぎわいの創出

<p>獣害 対策</p>	<p>①ニホンジカの捕獲数が目標に届かないなど獣害は依然深刻化している。 ②侵入防止柵の設置は順調に進めているものの、獣害の対策に当たる集落リーダーが高齢化しており、継続して獣害対策を行えるかが課題。</p>	<p>○侵入防止柵の整備と維持管理の推進、狩猟者の育成や集落リーダー育成に引き続き取り組む。 ○また、地域資源を活かして、獣害を受けにくい作物や獣害等で減少した地域の伝統的作物の再生等を検討する。更には、試作し直売等での提供等を試みることにより、農業を通じたやりがい等につなげることを目指す。</p> <p>⇒獣害対策・地域資源活用の推進</p>
<p>移住 ・ 定住</p>	<p>①農山村の人口減少対策の一つとして移住を促進していく必要があるが、本県が移住候補先としての認知度が低いことから、より一層認知度を高めることと魅力の向上に努めることが必要。 ②移住希望者へのサポート体制の充実を図ることが必要。</p>	<p>○滋賀県への移住を促進するため、移住希望者への情報提供の充実による認知度アップ、ワンストップ相談窓口の設置のほか魅力的な地域の取り組み紹介等、移住・定住までの切れ目のない伴走支援による移住前後のサポート体制の取組強化を行う必要がある。</p> <p>⇒移住・交流に向けた取り組みの更なる取り組みの推進 (「しがIJU相談センターを核とした取組」など)</p>
<p>仕事 づくり</p>	<p>①今後も引き続き現在の農山村地域に暮らし続けるためには、林業などの一次産業だけではなく、生活を維持できるだけの所得を確保できる新たな仕事づくりが必要。</p>	<p>○地域に合ったコミュニティビジネスを振興し、外から稼ぐ力を高めることにより、暮らし続けられる地域を維持するための経済循環の流れを作り出す必要がある。</p> <p>⇒山村地域における コミュニティビジネスの振興</p>
<p>空き家 対策</p>	<p>①少子高齢化等の影響に伴い、今後より一層空き家が増加することが見込まれる一方で、住宅取得に占める既存住宅の割合が低い。 ②空き家の発生予防とともに既存住宅の活用のインセンティブの強化が必要。</p>	<p>○空き家の活用等に関するノウハウを有する専門家団体で構成される協議会と連携し、市町の空き家バンクの活動を支援等を行うことにより、既存住宅の流通拡大と空き家の発生抑制を図り、空き家解消による地域コミュニティの活力向上につなげる。</p> <p>⇒農村・中山間地等での多様なニーズを踏まえた空き家流通の更なる促進</p>

※年度内は、従来の県事業等の現状と課題の整理や、地域のニーズや課題を把握するための現地調査に引き続き取り組む予定。

やまの健康推進プロジェクト(推進のイメージ)

背景・現状

- ・山村地域では、過疎化や高齢化で農林業の担い手が減少。
- ・農地や森林に手が入らなくなり、荒廃が顕在化、多面的機能低下。
- ・獣害による農林業被害のため、意欲が減退。

目的

琵琶湖を取り巻く森林・農地が適切に管理されるとともに、農山村の価値や魅力に焦点を当て、地域資源を活かしたモノ・サービスなどによって経済循環や県民全体との関わりをつくることで、農山村が活性化している姿を実現する。

取組

- 「やまの健康」の実現に向けて有識者会議の助言を得て構想を策定するとともに、広報活動を展開して関係者の意欲を高める。
- 意欲のある集落を中心にモデルとなる地域を設定し、モデルとなる地域が自ら策定する計画に基づく活動を支援する。

項目	平成31年度	平成32年度
構想策定(有識者会議)		
広報活動		
モデル地域公募・決定	2地区	3地区
地域の活動計画策定		
地域プラットフォーム運営		
モデル地域活動	H31採択分	H32採択分

琵琶湖環境部

「やまの健康」の推進

- ・構想策定、有識者会議
- ・庁内PT会議
- ・シンポジウムの開催

- ・活動のモデルとなる地域の設定
- ・モデル地域への情報提供
- ・モデル地域内の取組支援

統括

部局連携による支援

